坂ろうだより

第６号
埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園
令和８年１０月１日

思い出いっぱい日光修学旅行　　９月10日・11日

今年は、小学部と中学部が合同で修学旅行に行ってきました！

今年度の修学旅行は、小学部と中学部の合同で、９月１０日（木）・１１日（金）の１泊２日の日程で日光方面へ行ってきました。中型観光バスに乗り、たくさんの発見と笑顔にあふれた思い出深い修学旅行となりました。

１日目は、足尾銅山、日光自然博物館、中禅寺湖の遊覧船、足湯を体験しました。足尾銅山では、鉱山内に再現された作業風景の人形を興味深そうに見たり、採掘された鉱石や宝石、銅から作られたお金をじっくり観察したりする姿が見られました。日光自然博物館では、日光に生息する動植物について、模型や映像を見ながら興味をもって学んでいました。

中禅寺湖の遊覧船では、息が白くなるほどの寒さの中でも屋上に出て景色を楽しみ、「山が見える！」「あそこは何だろう？」と友達同士で話しながら湖畔の景色を眺めていました。また、華厳の滝は濃霧のため見ることができず残念でしたが、その後の足湯ではゆったりとした時間を過ごしました。
宿泊先の奥日光パークロッジ深山では、部屋に戻ると友達とゲームをしたり、おしゃべりをしたりして楽しく過ごしました。夕食では、ご飯やみそ汁を何度もおかわりする児童生徒もおり、みんな元気いっぱいに食事を楽しんでいました。

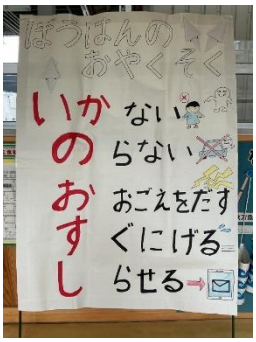
２日目の朝食時には、野生の鹿や猿が歩く姿を見ることができ、児童生徒たちは大興奮でした。その後は、日光東照宮、富士屋観光センター、日光江戸村を見学し、友達と一緒に楽しみながら歴史や文化に触れることができました。

今回の修学旅行は初めて小学部中学部との合同実施でしたが、「寄宿舎でも一緒なので、お互いのことはよく知っている」と話す児童生徒もおり、最初から自然に関わる様子が見られました。中学部の生徒は、小学部の児童を気遣う姿もあり、とても頼もしい先輩ぶりを発揮していました。２日間を通して礼儀正しく過ごすことができ、帰りのバスでは充実した活動の疲れからぐっすりと眠る姿が見られました。

自然や歴史、文化に触れながら友達との交流を深め、多くの学びと楽しい思い出をつくることができた修学旅行となりました。

不審者対応訓練　９月３日（木）

９月３日（木）に全校一斉の不審者対応訓練を実施しました。今年度も、①速やかな避難、②各教室の施錠の徹底、③教室内でのバリケードの作成、④チャットを用いた不審者情報の共有を意識して行いました。不審者対応訓練終了後は、体育館に集まり防犯教室を実施しました。防犯の約束「いか・の・お・す・し」について説明し、登下校中や一人になる時には十分注意するよう声掛けをしました。校内全体が防犯について改めて考える、とても良い訓練となりました。



坂戸市ブルーライトアップイベント　９月１８日（金）

毎年、９月２３日の「手話言語の国際デー」にあわせて行われる坂戸市のブルーライトアップイベントが、今年は９月１８日に開催されました。事前に希望を募り、中学部５名、高等部９名の生徒が参加しました。オープニングでは校長、高等部の生徒が挨拶をし、中学部の生徒が点灯のスイッチを押しました。美術の時間に手話言語の国際デーにちなんだ絵を生徒が描き、当日はその絵の入ったポケットティッシュを坂戸駅で配布しました。最初は恥ずかしがったり、断られてショックを受ける様子も見られましたが、すぐに渡し方を工夫し積極的に取り組めるようになり、終了時間よりも早く、すべてのポケットティッシュの配布を終えました。笑顔で声をかけている姿が、何よりも輝いていました。

～ろう者にとって働きやすい環境を考える～

校長　棚田　茂

第２学期が始まってすぐインフルエンザが流行し、９月１０日・１１日の修学旅行が懸念事項となっていました。しかし当日は、児童生徒及び教職員全員が参加することができました。悪天候の中、日光自然博物館見学、中禅寺湖観覧船、翌日は日光東照宮・日光江戸村を見学し、充実した修学旅行となりました。今年は児童生徒数の減少により、小学部第５・６学年と中学部第３学年の合同修学旅行となりましたが、お互いに楽しむことができるよう配慮した旅程を満喫できたと思います。

９月２７日に第１３回全国高校生手話パフォーマンス甲子園が開催されました。予選一位で通過した本校は、「ろうあ島～そして、広がる～」というタイトルで、手話を広めたいという思いを訴えました。本番では全力を尽くし、気持ちの良い演劇・コント・ポエムでしたが、残念ながら第３位になりました。勉強と部活の合間を縫って取り組んだ生徒たちの表情はとてもさわやかで、来年度のリベンジを誓い合っていました。おめでとうございます。

校長室に新しいシステムが２点導入されました。一つは、ドアのノック音に気付くための光るライト、もう一つは電話リレーサービスです。ろう者である校長は、これまで音による呼び出しに対応することができませんでしたが、このシステムにより迅速に対応できるようになりました。また、電話リレーサービスを導入したことで、手話通訳者がいない場合でも、いつでも必要な時に電話をかけられるようになりました。校長室のアップデートは、教職員、児童生徒、保護者の皆様からの強い要望も背景にあります。このような環境整備を通じて、ろう者にとって職場が働きやすい環境を実現していきたいと考えています。